

# 中小企業ぎふ

Vol.681

2022年11月25日 隔月25日発行

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市数田南5丁目14番53号  
OKBふれあい会館9階

☎ 058-277-1100

HP <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

**連携の力で無限の可能性にチャレンジ!**

中央会は、「ウイズ・コロナ時代」の組合・中小企業の挑戦を応援します



若い“技術者”が活躍するサンワーク(株)

## 組合紹介 2~3

多治見陶磁器卸商業協同組合

## クローズアップ企業 4~5

岐阜県既製服縫製工業組合 組合員  
「サンワーク株式会社」

## 専門家コラム

「今をどう見る~生き残りツールとしての情報」 6~7

## 中央会の活動 8~10

- ・第74回中小企業団体全国大会の報告
- ・営業DX戦略セミナーを開催
- ・県へ官公需に関する要望
- ・組合事務局スキルアップ講座を開催
- ・レディースクラブが「全国フォーラム」に参加

## 組合等の活動 10~11

- ・(協)飛騨木工連合会  
飛騨の家具®フェスティバルを開催
- ・各組合がDX導入に向けた啓発セミナーを開催
- ・ギフセレクト協議会  
提案型ライフスタイル企業が連携し協議会を発足
- ・陶磁器関連組合が東濃各地でイベント実施

## 全国の先進事例 12

- ・(協)鳥取卸センター

## 景況レポート 13

## 産業雇用安定センターからのお知らせ 14

## インフォメーション 15

- ・秋の叙勲、褒章
- ・中央会 新規採用のお知らせ
- ・DX相談窓口通信

## 組合事務局スキルアップ講座、 電子帳簿保存法・インボイスセミナーのお知らせ 16

# 組合 紹介

## こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動を続けていますので、皆様の仲間を紹介します。



### 多治見陶磁器卸商業協同組合

- 理事長 安藤 英利
- 組合員数 102名
- 設立年月 1947年3月
- 住所 多治見市明治町2丁目4番地
- TEL 0572-25-5588

### 持続可能な組合づくり —青年部、女子部が活発に活動—

#### ◆組合の歴史・活動

##### ■明治から続く多治見の陶器商の集まり



安藤理事長

明治27年に多治見町の陶器商により、当組合の前身である「多治見陶器商組合」が設立されたのが起源です。

昭和11年に多治見陶磁器卸商組合と改組しましたが、このころの日本は不安定な時代にあり、昭和12年の中華事変、13年の国民

総動員法公布、14年の価格等統制令公布、16年の太平洋戦争開戦等、通常の商いができない状況にありました。国から製造業者には、企業合同・転廃業を求められ三百数十名いた組合員が六十数名へと大幅減少となりました。

昭和24年の協同組合法施行に伴い、現在の多治見陶磁器卸商業協同組合へと名称を変え、今に続いています。

昭和50年には全国陶産地1府7県の卸商業協同組合が合同団結して「日本陶磁器卸商業協同組合連合会」を設立。昭和60年には、多治見・中央・共栄・市之倉・滝呂の市内五卸商業協同組合を統合し、組合員380名、全国シェア38%を占める日本一の組合となりました。

当組合は設立以来活発な事業活動を継続しており、陶器を出荷する際の包装資材等の共同購買や損害保険、ETCコーポレートカード、車検の取り扱いに始まり、東京ドームシティで行われる「テーブルフェア・フェスティバル」への出展など、組合員の支援を行っています。

##### ■伝統ある「たじみ陶器まつり」 —コロナ禍でも新事業を展開—

毎年、4月の第2週の土日には、当組合が中心となり「たじみ陶器まつり」を開催しています。行政や多治見商工会議所らの協力により、昭和23年から実施している歴史あるイベントで、多治見の一大行事として親しまれています。

本町オリベストリートをメイン会場に、多治見市内各地で開

催され、露店での美濃焼販売市のほか、ジャズライブや大道芸などのイベントも実施しています。



たじみ陶器まつりの様子

また、コロナ禍においては、コロナで落ち込んだ業界や地元を盛り上げるイベントも実施しています。

令和2年から3年連続で多治見市が実施している「美濃焼GO」の運営

を多治見市から委託を受けて、事務局を担いました。美濃焼GOは、美濃焼などの購入費用の一部を多治見市が支援するキャンペーンであり、当組合でも、キャンペーン期間中である夏に祭りを開催するなどして、キャンペーンを盛り上げました。

行政や地域とも協力しながら、伝統のあるたじみ陶器まつりだけでなく、コロナ禍においても新事業の活路を見いだしながら活動しています。

##### ■平成30年からスタートした「陶都創造館」の運営

共同購買事業は組合事業の柱の一つですが、最盛期と比較して、組合員は3分の1以下となり、必然的に購買量は減っています。そこで新たな柱を構築するべく、平成30年から本町オリベストリートの中心に位置する複合施設「陶都創造館」の運営をスタートしました。

3階建ての同館には、物販や飲食などのショップのほか、多治見市PRセンターやギャラリー工房が入居しており、当組合が運営する博物館「多治見商人物語」や、組合直営ショップである「うつわや多治見」も併設しています。

多治見商人物語には、パネルによる説明や、陶器商人の足跡として組合員各社より歴史ある製品を集めて展示していますので、組合や多治見の陶器製造販売の歴史をめぐることができます。

うつわや多治見では、組合員が取り扱う商品を販売しています。また、作家を育てたい思いから、地元若手作家の作品を展示・販売する「一品入魂コーナー」を設けています。

同館は、美濃焼のPR拠点としての役割にとどまらず、本来消費者と接する機会の少ない我々に、消費者との接点を得られる等のメリットもあります。



陶都創造館の外観



## ■活発な青年部・女子部の活動

当組合では、青年部と女子部を組織しており、それぞれ活発に活動しています。

青年部は、自己研鑽の場であり、主に勉強会などを実施しています。また、イベントの際には、力仕事を買って出るなど、非常に頼りになる存在です。

最近では青年部企画のイベントも実施しており、陶都創造館を会場に11月3日の文化の日に開催しているイベントは、コロナ禍にもかかわらず多くの方にご来場いただけており、好評なイベントとなっています。元々は、毎年同日に開催される多治見市主催の「多治見まつり」の賑わいを狙っての開催でしたが、コロナ禍で多治見まつりが中止となっても大変な賑わいでしたので、単独開催でも十分に人を呼び込めるイベントとなっています。組合内でも1日だけではもったいないとの声上がるほど、盛り上がりを見せています。

現在の役員には青年部出身者が多くいます。彼らには青年部活動を通して、これからの組合を引っ張っていく存在となることを期待しています。

女子部は、平成30年6月に発足し、「リンカリエ」という名称で活動しています。イベント時のワークショップの実施や、商品開発に取り組んでおり、モノづくりのノウハウやパッケージング、デザイン、販促を学ぶ場となっています。最近では、多治見のお土産を作ろうと「うながっぱ（多治見市公式キャラクター）」や「やくならマグカップも（多治見市を舞台とした美濃焼がテーマのコミック、アニメ）」にちなんだ商品を企画しました。

また、令和4年4月から「うつわと珈琲 リンカリエ カフェ」を

オープンし、陶都創造館内の喫茶店の定休日に、そちらの店舗を間借りして営業しています。料理とうつわを組み合わせ、使い手目線で美濃焼の魅力を発信しています。

## ◆組合が目指す方向性とは

### ■持続可能な組合づくり 一すべては組合員のために一

陶器まつりは、行政や市民も注目する多治見を代表するお祭りです。これからも皆様のご期待に応えられるように、しっかり準備してまいります。

美濃焼のブランド力向上や業界の発展には、次世代を担う人材の存在は不可欠です。そのために、引き継ぎやすい環境、若手が戻ってきやすい環境づくりに努めていきます。

目下で力を入れているのが販路開拓です。以前から参加している東京ドームシティで行われるテーブルウェアフェスティバルへの出展のほか、多治見市が友好協定を結んだ中国邛崃（キュウライ）市の邛窯遺跡博物館において美濃焼コーナーを設置することが決まっており、中国交易に拠点を置くことで国外への販路開拓にも積極的に取り組んでいきます。

組合員数はピークの3分の1となり、減少の一途を辿り、団塊の世代が引退される頃にはさらに大きく減少することが予想されます。組合員が減少し、小規模な組合となっても、安定した運営と組合員に変わらぬサービスを可能にする組合を構築します。

『すべては組合員のために』をテーマに、常に組合員ファーストの持続可能な組合づくりを目指していきます。

## 業界豆知識

### めざせ!やきもの博士! —やきものマイスターのご紹介—

「やきものマイスター」をご存じですか？

「やきものマイスター」は、陶磁器の産地卸やメーカー、小売店などの団体である「日本陶磁器卸商業協同組合連合会」、「日本陶磁器工業協同組合連合会」、「日本陶磁器産業振興協会」、「TOZIX・ジャパン」で組織する「陶器の日」事業4団体協議会を母体にした「やきものマイスター検定実行委員会」主催の焼き物の知識を問うオンライン検定です。

ちなみに、「陶器の日」とは、古代の日本では陶器を陶瓷（とうし）と呼んでいたため、陶瓷の陶を十とし、瓷を四となぞらえて、日本陶磁器卸商業協同組合連合会が10月4日を「陶器の日」と制定しました。

検定では、美濃焼だけではなく、瀬戸焼や有田焼などの各産地の特徴や製造工程を問うものから、業界人もうなるような問題も出題されます。1、2、3級に分かれており、3級は無料でいつでも挑戦可能です。まずは3級から挑戦してみましょう！

陶都創造館にある多治見陶磁器卸商業協同組合直営店「うつわや多治見」のスタッフは全員やきものマイスターに合格しています。お立ち寄りの際は、やきものについて質問してみたいはかがでしょうか？



# クローズアップ企業

## 岐阜県既製服縫製工業組合 サンワーク株式会社

### 《企業概要》

所在地：岐阜市三歳町3-11-5 電話：058-215-6327

代表：代表取締役 浅野 勝三

主な事業：縫製加工業



本社外観

### 技術を磨き活路を拓く

#### ◎ 御社のこれまでの沿革についてご紹介ください。

#### ◆ 関連会社のものづくりを支えるためにスタート



浅野社長

関連会社であるアパレルOEM・ODMのサンエース株式会社が、11年前に自社工場として立ち上げたのが当社の始まりです。

創業当時は、縫製機能の海外移転が進行しており、難度の高い縫製に対応できる国内での生産拠点が減っていました。また、縫製を依頼していた縫製工場から廃業するとの連絡があったこともあり、自社工場を持つことを決意しました。

「縫製工場を持つことは難しいため、やめておけ」と何人もの方に止められたのを覚えています。しかし、ものづくりをする場がどんどんなくなることに危機感を感じていましたし、実用新案を何個も保有し、難度の高い商品を取り扱うサンエースには、技術力の高い縫製工場が必要でした。時代に逆行していましたが、これからは技術が必要となる時代が必ず来ると思い、人材を受け入れ、ミシンやアイロンといった機材を揃え、思い切って自社工場をスタートしました。

多額の投資となりましたが、来年で創立70周年を迎えるサンエースのものづくりを支える拠点となっています。

多額の投資となりましたが、来年で創立70周年を迎えるサンエースのものづくりを支える拠点となっています。

#### ◎ 御社の特徴や方針を教えてください。

#### ◆ 付加価値を生み出す高い技術力

当社は、歴史の浅い会社ですが、技術力に自信を持っています。

洋服は、暑さや寒さをしのぐ実用的な側面だけでなく、服を着た時のワクワクやドキドキといった高揚感を感じられるのが本来の姿だと思っています。そのためには、差別化と言った付加価値が求められます。私は、付加価値を生

み出すのは高い技術力と考えており、当社では技術者育成に力を入れています。

当社で言う技術者とは、洋服一着の丸縫いができ、一人でサンプルが縫える技術を持っていることを指し、入社後まずはそのレベルを目指してもらいます。最初の3年はボトムの縫製を手掛け、シャツ、ジャケットなどを担当し、6～8年のスパンで全アイテムの縫製が可能となります。生産性を考えると非効率ですが、技術を身に着けるには必要な期間です。

当社には、中国からの外国人技能実習生も在籍しており、制度上は実習生と呼ばれていますが、レベルは高く、技術者レベルに達する者もいます。技能実習生中心に工場を回すことも可能ですが、中国では一人っ子政策による高齢化が進み、これから技術の伝承が難しくなっていきますので、日本人技術者を育てることは急務であると感じています。

現在、日本人縫製工員は18名いますが、技術者育成に取り組んだ結果もあり、ものづくりマイスター(※1)が1名、技能検定(※2)1級が2名、2級が5名在籍しています。技能検定合格者は、成績優秀者として県知事賞や職業能力開発協会賞を受賞した者もいます。2級合格者はすべて20代であり、若い人材も育っています。

毎年、専門学校卒の若い人材の採用も進めており、今年には30名を超える応募があり、これから楽しみな人材も入社します。

(※1) 厚生労働省所管「ものづくりマイスター」婦人子供服製造部門

(※2) 国家検定 婦人子供服製造技能士 婦人子供既製服縫製作業



若い技術者が活躍する工場

## ◆「感動できないものをつくらない」 —こだわりのものづくり—

「服を通して社会に感動を伝える」の社是のもと、縫製技術の向上に努めています。

難度の低い仕事は基本的に受けないというスタンスをとっています。どんどん仕事を受ければ売上も上がり、今より会社規模も大きくなったかもしれませんが、無理して受けると品質に影響するため、キャパシティを超えた仕事は受けないようになっています。

高い技術力を維持するためには、難度の高い商品を縫い続ける必要があります。技術を磨き続けた結果、仕事の7割ほどは関連会社のサンエースからですが、国内の有名デザイナーブランドからの縫製依頼もいただいています。

「感動できないものをつくらない」。そこが当社の活路であり、こだわりを持ったものづくりを続けています。

## ◎組合に期待することは何ですか？

### ◆同業他社とともに高みへ

組合では、付加価値の高いものづくりのための技術者育成を目的に「プロフェッショナル・ミシンオペレーター育成講座」を開講しており、当社従業員も毎年参加させていただき、技術を磨いています。

また、今年からアイデアを持つ服飾専門学校の学生と組合員を結びつけるマッチング事業がスタートし、当社も参加しています。縫製メーカーは価格決定権を持ちづらいことが課題であり、これを解決するためには、自社で製品を持つしかありません。学生のアイデアを形にし、クラウドファンディングによりD2Cに取り組むことで、各社が付加価値の高いものづくりを行うきっかけになればと考えます。

組合事業を活用しながら、各社が強みを磨き、同業他社とも切磋琢磨して高みを目指していきたいです。

## ◎御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

### ◆サプライビジネスからクリエイティブビジネスへの転換

コロナ禍により、ビジネスが大きく変化しています。アパレル業界も、従来の売れ筋を見極めて安く、早く作って大勢

の消費者に販売するサプライビジネスの時代から、モノではなく、感動と経験という付加価値が消費価格を決定する、つまり感動の度合いがお金を払う度合いを決めるクリエイティブビジネスの時代に変化すると考えています。

人手不足が騒がれる日本において、大量のものづくりは難しくなると思います。ニッチかもしれませんが、100枚の個性的な服をピンポイントで本当に欲しい人に届ける時代がきています。そこには技術が必要であり、これからも高い技術を武器に感動できるものを社会に届けていきます。



サンエース実用新案(ツイステッドラベル)を形にするサンワーク FISMA TOKYOで「現代の名工」稲荷田征氏が解説

### ◆業界のゲームチェンジャーへ

昨今、目まぐるしくテクノロジーが進化しています。中でもメタバースに注目しており、ファッション業界、縫製業界をゲームチェンジさせる可能性を感じています。

あなたの等身大のアバターが、バーチャル上で気になった服を試着する。窮屈な箇所は、印で教えてくれます。試着ができず、サイズ感がわからなかった通販の問題点は、もうそこにはありません。バーチャル上で新作のファッションショーが開催され、アバターとなったあなたがランウェイを歩き、気に入ったアイテムをその場で注文できる。そんな時代が迫っていることにワクワクしませんか？

当社では、メタバースラボとスタジオを作ろうと今年から本格的に設備投資を始めました。取引しているブランドの世界をバーチャル上で表現する手伝いだけでなく、新しい価値観を取り入れるべく、異業種の方とも積極的に組んでいきたいと考えています。

実現できる保証はありません。できている道を歩くのではなく、これから新しい道を作る業界のゲームチェンジャーを目指していきたいと思います。

### 【組合概要】 岐阜県既製服縫製工業組合

代表理事 平嶋 千里

(有限会社ソーイング平島)

岐阜市藪田南1丁目11番12号

岐阜県水産会館内

組合員数：80名

主な事業：指導及び教育事業、共同受注事業



プロフェッショナル・ミシンオペレーター育成講座の様子

※組合員企業の掲載希望がございましたら、企画振興課までお知らせください。



## 今をどう見る～生き残りツールとしての情報

このコーナーでは、神戸国際大学経済学部 中村智彦教授より折々に感じておられる組合・中小企業向けの有益な情報についてご執筆いただきます。組合運営、企業経営にお役立てください。

### 商業はどう変化するのか ～鍵を握るのは通販とキャッシュレス

この3年間、コロナ禍によって、私たちの生活や仕事に大きな変化が起きました。その中でも流通小売業界では、これまでの変化が加速し、大きくその姿を変化させつつあります。今回は、その変化の実情を見ながら、これからを分析してみましょう。

#### ・百貨店の衰退

百貨店の衰退は、この10年間で加速度がついてきたようです。地方の中核都市にあった百貨店の多くが閉店や倒産に追い込まれています。かつては名門だといわれた大手百貨店も売却され、大幅な業態転換が行われるだろうと言われていました。

地方都市の商店街などで話を聞くと、百貨店が無くなることで中心市街地の集客力が一段と下がると懸念する声を聞きます。しかし、実際にはすでに集客力は大きく低下しており、むしろここまでよく経営を継続してきたという状況です。

地方都市の中心商業地は、多くの場合、鉄道の駅から離れたところにあり、徒歩やバスなどで移動する必要があります。鉄道が敷かれる以前からの商業中心地であり、歴史も伝統もある地域です。かつては、銀行や証券会社、保険会社などが支店を構え、料亭やレストラン、飲み屋街と、買い物だけではなく、地方都市の中心地として栄えた歴史があります。

しかし、1980年代後半から、本格的なモータリゼーションが始まり、地方では「家族の人数と同じ台数の車がある」と言われるほど、車を利用するのが普通になりました。郊外にショッピングモールや大型店が出店し、車で買い物に行くのが普通になるにつれて、急激に中心部は廃れていきました。

コロナ禍を契機に閉店や倒産が増えているのは確かなのですが、もともと問題を抱えていた業界であったということが言えます。コロナ禍によって、問題が一気に表面化したという点では、百貨店業界だけではなく、ほかの業界でも見られることです。

#### ・特別感を失った

さて、大型ショッピングモールなどの出現は、単にそうした物理的な変化を引き起こしただけではありませんでした。贈答品や記念品など、特別な買い物は百貨店や中心部の老舗商店に買い物に行くというライフスタイルが、

根底から崩れたのです。

デパ地下も同様です。近年は、スーパーマーケットが過当競争になり、それぞれが個性を打ち出すのに必死です。低価格を売りにするスーパーもありますが、中にはデパ地下と同レベルの品ぞろえを売りにするスーパーも増えています。

顧客からしてみれば、「デパートに行かなくても、同品質のものが近所のスーパーで買える」ということだったが、次第に「デパートに出かけても、高級スーパーと大して変わらない」となっていったわけです。

百貨店業界で見られるように、かつては自社だけが扱っていた商品やサービスが、他業種でも扱えるようになるということも多くなっています。日本の国内市場は人口減少で縮小傾向にありますから、どの業種も生き残りをかけて異業種、異分野への進出を試みています。逆を言えば、自分の業種、業態に他から参入が増える可能性があるということも理解しておく必要があります。自分たちが他に攻め込む準備も必要だけれど、他から攻め込まれた時の防戦策も必要だということです。

#### ・シャワー効果を見直す

昭和の初めに私鉄各社が百貨店を創業した時、日本の百貨店のビジネススタイルが形成されました。その一つがシャワー効果です。百貨店の最上階に子供向けの遊園地が設けられ、最上階には大食堂が開業していました。百貨店を訪れた家族連れは、子供たちを遊ばせるために屋上まで上がり、あるいは最上階で食事を楽しむ。そして、上層階から降りていきながら買い物を楽しむというのが、シャワー効果です。

バブル経済崩壊以降、百貨店は深刻な売上げ減少に悩まされました。その中で、東京都内の百貨店では、ターゲットを家族層から独身の女性や男性に大きく変化をさせました。屋上の遊園地は撤去され、しゃれたガーデンやカフェなどに姿を変えました。家族向けだった大食堂も時代遅れだと、有名飲食店をテナントとして入れて飲食店街へと変わっていきました。

こうした戦略は、東京都内では成功しました。ある百貨店関係者は、「バブル経済崩壊後も、都市部では独身者の富裕層が一定存在し、いわば成金市場をターゲットにして成功したのです」と話しました。

こうした東京での成功例は、瞬く間に全国の地方百貨

店にも広がりました。しかし、残念ながら首都圏ほどの成功は納めることはできませんでした。ターゲットとした独身者の富裕層がそんなにいなかったからです。

むしろ、シャワー効果を放棄したことによって、長期的に悪影響が出てきました。現在の40歳代以上の方は、子供のころに家族で百貨店に行ったこと、それが楽しかったことの記憶がある方が多いでしょう。しかし、それ以下の年代では、そうした思い出がないのです。つまり、百貨店が特別な「お買い物の場」という刷り込みがなされなかったのです。

今の学生たちに、子供のころの「お買い物」の記憶を尋ねると、ショッピングモールの遊園地や遊戯場、フードコートのことを話します。つまり、40歳代以上の人たちには百貨店であったものが、彼らにとってはショッピングモールにとって代わってしまったのです。

このことは百貨店への憧れや「特別感」を失わせてしまったことに繋がります。よく経営者の方が「今日の千円、明日の一万円」と半ば冗談で言われることがあります。次世代の顧客をどう作っていくのか、非常に難しい問題ですが、百貨店がシャワー効果を捨てたことによる影響は、10年以上経って、明確に出てきているのです。

## ・ネット通販の増加

コロナ禍で最も大きく変化したのが、ネット通販です。外出規制が出されたことや、在宅勤務が増加したこと。さらに、そこにこのところの夏の気温の高温化なども加わり、これまであまり利用しなかった中高年齢層のネット通販の利用が急増しました。

ある70歳代



の男性は、「これまでスマホなんかとっていたが、孫に教えてもらって利用してみると便利だし、重い商品が玄関先まで届くし、安いことが分かった」と話し、コロナ禍が終わっても手放さないと云います。同じような感想を持っている高齢者は多いでしょう。

高齢者層だけではなく、時間の余裕のない子育て世代の人たちにも、ネット通販は定着したようです。

ネット通販の伸び率は、徐々に鈍化していますが、それは普及したことを意味しており、仮にコロナ禍が収束しても、ネット通販が元の状態に戻ることは考えられません。そのため、これまで店頭販売が主流だった小売業や飲食店などでも、ネット通販に取り組む企業や個人が増えています。

ネット通販の場合、販売サイトを設置するだけではなく、SNSなどで日々の情報を絶えず流す必要が出てきます。そうした点でも、これまでの宣伝広報戦略を見直す必要が出てきています。雑貨販売店の経営者は、自店舗を交通の不便な別荘地に持っていますが、「開店した10年ほど前は、なかなかお客さんに来てもらえなかったが、ここ数年はSNSなどで見た人が車でやってきてくれる。そのため、店の装飾なども、お客さんがさらにSNSで発信したくなるようにと頑張っている」と話し、ネット通販だけではなく、実際に訪れてくるお客も増加していると話します。

情報発信によって、ネット通販と実店舗訪問は、実は不可分で、繋がっていることがわかります。

## ・これから

コロナ禍で経済活動が止まったことによる被害は大きくでした。そのため、コロナ禍が継続しても、何とか経済活動を止めないようにしようというのが、官民の共通した考えになってきています。

だとすれば、経営者は、どのような手を打っていかねばならないのでしょうか。今回、ご紹介した百貨店の事例は、さまざまな面から我々に示唆を与えてくれているのではないのでしょうか。



中村 智彦  
(なかむら ともひこ)

【ホームページ】 <http://monodukuri.jp/>

【常勤】 神戸国際大学経済学部 教授

【非常勤】 関西大学商学部 非常勤講師・愛知工科大学工学部 非常勤講師

【専門】 中小企業論・地域経済論

【略歴】 昭和39年 東京都生まれ

昭和63年 上智大学文学部卒業

平成12年 名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程修了 (学術博士・名古屋大学)

【活動】 総務省地域創造力アドバイザー・京都府向日市ふるさと創生計画委員会座長

東京都北区ネスト赤羽支援機能拡充検討委員会座長・山形県川西町第5次総合計画アドバイザー  
ヤフー! ニュース <https://news.yahoo.co.jp/byline/nakamuratomohiko>

## “つながる ひろげる 連携の架け橋”～希望の未来 中小企業「光」を結集～ 第74回中小企業団体全国大会（長崎県）

全国中小企業団体中央会と長崎県中小企業団体中央会は11月10日、「出島メッセ長崎」（長崎市）において「第74回中小企業団体全国大会」を開催した。全国から中小企業団体の代表者ら約2,000名が参集し、本会からは会員組合等から21名が参加した。

本大会は、中小企業者で組織する全国約3万組合等からの意見を踏まえた決議を内外に表明し、国などに対し中小企業が抱える課題への対応策と振興策の強化を訴求することなどを目的として毎年開催しているもの。

大会は、銀屋町鯨太鼓の力強い演奏により幕が明け、中国の国家機密である伝統芸能『変面』のお披露目で会場を魅了した後、小林洋司厚生労働審議官、平田研長崎県副知事、田上富久長崎市長、関根正裕（株）商工組合中央金庫代表取締役社長から祝辞が述べられ、西村康稔経済産業大臣、野村哲郎農林水産大臣からビデオメッセージが寄せられた。

続いて、石丸忠重長崎県中央会会長が議長に就任し議事が進行され、中小企業・小規模事業者等の経営強靱化・成長促進支援等の拡充、中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進、中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備など14項目の決議案が上程され、満場一致で採択された。続いて大会宣言、優良組合等の表彰が行われ、次回は宮城県で開催することが発表された。



森全国中央会会長のあいさつ

### ●決議項目

詳しくは全国中央会のホームページからご覧ください。  
(<https://www.chuokai.or.jp/index.php/4723/>)

#### I 中小企業・小規模事業者等の経営強靱化・成長促進支援等の拡充

1. 現下の危機的課題の克服に向けた経済再生支援策の拡充強化
2. 中小企業・小規模事業者の成長促進、持続的発展に向けた支援強化
3. 中小企業団体中央会の指導体制・支援機能の抜本的強化、中小企業組合制度の拡充・改善
4. 地域経済の好循環の推進、地域課題の解決

#### II 中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進

1. 中小企業の人材育成・確保・定着対策
2. 新型コロナウイルス感染症の影響長期化に配慮した社会保障制度の見直し
3. 外国人技能実習制度と特定技能の見直し

#### III 中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備

1. 中小企業金融施策の拡充
2. 中小企業・組合税制の拡充
3. 中小製造業等の持続的発展の推進
4. エネルギー・環境対応への支援の拡充
5. 卸売・小売業・まちづくりの推進に対する支援の拡充
6. サービス業支援の強化・拡充
7. 官公需対策の強力な推進

### ●大会宣言（抜粋）

中小・小規模事業者は極めて厳しい経営状況に直面しており、ウクライナを取り巻く不安定な国際情勢の深刻化、物価・原油価格の高騰及び部品の調達難などにより、新たな経営課題への対応に追われている。その努力が一刻も早く報われるよう、国等に対して、効果的なコロナ対策や手厚い総合経済対策を引き続き要望するとともに、次のスローガンのもと、本大会の各決議事項の早期実現を強く求めるものである。

- 一、成長と分配を実現させる中小・小規模事業者対策の強化
- 一、高騰するエネルギー・原材料価格の適正な転嫁と安定供給の拡充
- 一、未来への変革・挑戦を可能とする投資促進対策の拡充
- 一、震災復興、豪雨・風水害対策の拡充
- 一、地域の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進
- 一、中小企業組合等連携組織対策の拡充

本日参集した一同は、厳しい経営環境を克服するために一歩でも前に力強く前進すべく、中小企業組合等連携組織の強みを最大限に発揮し、積極果敢に行動することを決意する。

### ●本県からの受賞者

#### 【組合功労者】

- 井上 良介 氏（川崎岐阜協同組合 理事長）
- 村上 正雄 氏（岐阜県板金工業組合 理事長）

#### 【中央会優秀専従者】

- 細井 美智子（総務課 係長）

来年の全国大会は、2023年10月11日(水)に宮城県で開催する予定です。会員の皆様には多数の参加をお願いいたします。



## 営業DX戦略セミナーを開催

中央会は、10月28日にホテルグランヴェール岐山及びオンライン配信により、「営業DX戦略セミナー ～デジタル技術を駆使し、新たな営業スタイルの構築に挑戦～」を開催し、会場、オンライン合わせて30名が参加した。

セミナーは、「講演会」、「事例発表」、「トークディスカッション」の3部で構成。

講演会では、「アフターコロナを見据えた中小企業の営業DX戦略について」をテーマに、(株)オリズデザイン 代表取締役の岡崎理枝子氏が、「企業ごとにゴールが違うため、身の丈にあった取り組みを進めていくとDX推進はうまくいく」と解説した。

事例発表では、山県市でオーダーキッチンやオーダー家具などを設計、製造、販売を行う(株)藤岡木工所 代表取締役の藤岡功氏と、大垣市で染物屋を営む(有)福田屋の福田晃一朗氏が登壇した。藤岡氏は、Googleデータポータルによるマーケティング、Instagramによるライブ配信など、DXを活用した営業戦略を紹介した。福田氏は、新たな営業スタイルを確立した事例として、ものづくり補助金を活用して立ち上げたECサイトからオリジナル柄の風呂敷を作ることが出来るシステム『MOCHIAJI』を紹介した。

トークディスカッションでは、岡崎氏がコーディネーター役となり、各事例に対するポイント解説、藤岡氏・福田氏と対話形式で事例内容の深掘りが行われた。



トークディスカッションの様子  
(左から岡崎氏、藤岡氏、福田氏)

## 県へ官公需に関する要望

中央会並びに岐阜県建設関連業団体部会は、10月24日に岐阜県議会棟にて、県土整備部、都市建築部、商工労働部に対し「地元業者の優先活用と分離・分割発注の推進」や「資材・運搬費の価格高騰及び人件費上昇等への配慮」、「資材等の納期遅延と働き方改革促進を両立させる取組みの推進」などの県の官公需に関する9項目の要望を行った。

同部会では、毎年「官公需フォーラム」を開催して県担当部局との懇談会を実施している。このフォーラムに先立ち、事前に36組合等の部会員から寄せられた意見を取りまとめた要望活動を行っている。

当日は荒川晶一部会長と副部会長5人らが、大野県土整備部長、野崎都市建築部長、崎浦商工労働部長、それぞれと面談し、初めに荒川部会長より要望書の要旨を説明し、続いて副部会長より県内建設関連業界の現状等を報告した。



右から大野県土整備部長・荒川部会長

## 組合事務局スキルアップ講座を開催

中央会は、組合事務局職員を対象とした「組合事務局スキルアップ講座」を開催した。

本講座は、テーマ別研修会により、組合に関する様々な知識について学ぶもので、岐阜・東濃・飛騨の三会場で、「組合制度」「組合会計」の2テーマで実施している。計6回開催のうち、飛騨会場にて組合会計を10月21日、組合制度を10月28日、東濃会場にて組合制度を11月15日に開催した。

組合制度:講師を中央会職員が務め、「組合制度の基礎とポイント～定款参考例を読み解く～」をテーマに、定款参考例の条文を解説しながら、組合制度の基礎知識、注意点について解説を行った。

組合会計:講師に税理士の森靖氏を迎え、「一から確認!組合会計の基礎」をテーマに、「組合会計の原則」、「組合特有の会計処理」、「決算関係書類の作成」について解説があったほか、消費税インボイス制度についての説明があった。



スキルアップ講座(飛騨会場:会計)の様子

岐阜会場の組合制度は12月6日、組合会計は12月12日に開催します。岐阜会場では、会場参加のほか、オンラインでの参加も可能です。飛騨・東濃会場で都合がつかなかった方やもう一度聞いてみたい方など、たくさんのご参加お待ちしております。詳細は、本会報誌裏表紙及び中央会ホームページをご確認ください。

## 中央会活動

### レディースクラブが「全国フォーラムin青森」に参加

「令和4年度レディース中央会全国フォーラムin青森」が10月12日にホテル青森(青森市)で開催され、本会レディースクラブからは7名が参加した。

永きにわたり全国レディース中央会の役員を務めた方々への感謝状授与が執り行われ、役員を12年務められた加藤智子名誉会長に感謝状が授与された。

フォーラムでは、青森山田高校サッカー部監督の黒田剛氏による「常勝チームを作った最強のリーダー学」をテーマとした基調講演と、3名の女性経営者がパネラーとなり、八戸学院大学地域経営学部教授の堤静子氏をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われた。

フォーラム終了後には、交流懇親会が行われ、各県からの参加者との交流を深めた。



フォーラムの様子

## 組合等活動

### 飛驒の家具®フェスティバル開催

協同組合飛驒木工連合会(白川勝規理事長)

協同組合飛驒木工連合会は10月22日から26日に、「2022飛驒の家具®フェスティバル」を開催した。今回は、3年ぶりに飛驒・世界生活文化センターのメイン会場が復活し、各企業が一堂に会しての開催となった。

今回のメインテーマは、飛驒デザイン憲章第1条の「自然との共生～森に生かされ、森を活かす～」とし、テーマブースにおいては、森の木が家具になるまでの過程を空間で表現され、森と家具のつながりを再認識し、様々な木の状態や人の手・技を感じる展示となった。

その他にも、新たな試みとして有識者らによるトークショーが行われたほか、恒例の「2022匠・DNA展」や「飛驒の家具®勉強会」などが行われた。

当組合専務理事の袈裟丸浩康氏は「3年ぶりにメイン会場にて各社一堂に会しての開催となった。ショールームでの展示にはない一体感で飛驒の家具をPRすることができた」と話した。



3年ぶりの復活となったメイン会場

### 各組合がDX導入に向けた啓発セミナーを開催

協同組合飛驒木工連合会、岐阜県金属工業団地協同組合、岐阜県可児工業団地協同組合、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会、岐阜土木協同組合、土岐市陶磁器卸商業協同組合、関連合刃物協同組合、川崎岐阜協同組合、岐阜流通センター協同組合連合会の計9組合が、中央会のバックオフィス等DX導入支援事業を活用して、組合向け啓発セミナー及び個別相談会を実施し、組合員など149名が参加した。

セミナー講師は、中小企業診断士で税理士でもある中央会DXアドバイザーの長尾博氏が務め、「なぜDXに取り組む必要があるのか?～業務の効率化はバックオフィスから～」をテーマにDX推進の必要性について講演。デジタル技術を活用して属人化<sup>ゆづじょ</sup>した業務からの脱却を勧めた。また「電子帳簿保存法への対応は2年間の宥恕措置が設けられたが、電子取引に関しては電子データでの保存が義務化されている」と説明し、今後の対応策を解説したほか、個別相談会では、各社が抱える課題に対し、専門家目線でアドバイスした。



岐阜県金属工業団地(協)実施の様子

#### バックオフィス業務等DX導入支援事業のご案内

中央会では、「バックオフィス業務等DX導入支援事業」により、専門家による相談窓口対応や組合向けの啓発セミナー及び個別相談会の開催を行っております。バックオフィス業務に係るクラウドサービス等の導入や、組合向けのセミナーを希望される場合は、お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ窓口】 事業推進課 TEL 058-277-1101(担当:大島、安田)  
相談窓口 TEL 058-277-1104(専用ダイヤル)

## 組合等の活動

### 提案型ライフスタイル企業が連携し協議会を発足 —「飛騨の家具®フェスティバル」に出展—

ギブセレクト協議会（島田亜由美会長）

（株）杉山製作所（関市：鉄製家具）、（株）カネコ小兵製陶所（土岐市：陶磁器）、日進木工（株）（高山市：木工家具）、家田紙工（株）（岐阜市：和紙製品）、八幡化成（株）（郡上市：プラスチック製品）、（有）志津刃物製作所（関市：刃物）の県内企業6社が、ジェトロ岐阜及び中央会の協力を受けて「ギブセレクト協議会」を発足した。

当協議会では、県内の地場産業企業有志が業種を越えて連携し、岐阜県産ライフスタイル商品の魅力を展示会等により国内外に広く発信していく。

発足にあたって、当協議会会長である（株）杉山製作所 代表取締役の島田亜由美氏は、「地域・産業・業種の枠組みを越えた連携を強化し、暮らしを豊かにするライフスタイルを提案したい。岐阜のモノづくりの多様性、品質・機能・デザインの魅力を発信し、岐阜の作り手の風景を見て感じてもらいたい」と思いを語った。

また、発足後初めての取り組みとして「2022飛騨の家具®フェスティバル」に出展した。出展にあたっては、中央会「組合等チャレンジサポート事業（専門家派遣事業）」を活用し、東京2020オリンピック・パラリンピック表彰台プロジェクト等を手掛けた（株）wip 代表取締役の平本知樹氏を招き、当協議会のコンセプトを体現するブースデザインや展示のキュレーションについてアドバイスを受けた。

県内各地のつくり手をつなぐことで、様々な素材や大きさのアイテムを取り扱うことができ、暮らしの中の様々なシーンの演出が可能になる。今回は、ダイニング・リビング・ラウンジの3つのシーンを作り、会場で実際に手に取ったり、使ってみたりしながら、それぞれのアイテムのもつ魅力を感じてもらえるブースを目指した。

当フェスティバル出展を皮切りに、今後も精力的に活動していく。



展示ブース

### 陶磁器関連組合が東濃各地でイベント実施

東濃各地では陶磁器関連の組合がイベントを行った。

9月17日・18日には、協同組合土岐美濃焼卸センターが、織部ヒルズで「織部ヒルズオータムフェア2022」を開催。今年は土岐商業高校もコラボで参画され、「広報班」・「ECサイト班」・「キッチンカー班」・「体験班」の4つのグループに分かれた生徒が、フライヤーの制作や陶芸体験、ECサイトの運営等、イベントの企画運営に携わった。また、同時に開催された「織部ヒルズオンライン」には、「美濃焼産地で育った私たちが選ぶ『生活を彩る器たち32選』」と題し、生徒たちが各ショップを回ってセレクトした器が並んだ。

10月9・10日には、多治見美濃焼卸センター協同組合が、多治見美濃焼卸センターで「たじみ陶器まつり」を開催。40社ほどがテントや自社敷地内で通常より手ごろな価格で食器を販売した。

10月29・30日には、下石陶磁器工業協同組合が、組合周辺で「下石窯元まつり」を開催した。3年ぶりのまつり開催となり、今年から「どえらあええ陶器祭り」から「下石窯元まつり」に名称を変更し、窯元めぐりを主体とした内容にリニューアルした。開催前には、窯元まつりに参加する組合員をFacebook、Instagramで紹介し、窯元の様子を伝えた。

10月15・16・17日には、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会がセラミックパークMINOで「2022美濃焼新作展」を開催。グランプリの中小企業庁長官賞は、晋山窯ヤマツ（株）の「クランチVasa」が、岐阜県中央会会長賞には（有）丸甚製陶所の「まどか」が選ばれた。



オータムフェアの様子



たじみ陶器まつりの様子



下石窯元まつり 窯元めぐりの様子



新作展示会 中小企業庁長官賞





全国の先進組合事例を収集した「先進組合事例抄録（令和3年度組合資料収集加工事業報告書）」より抜粋して紹介します。先進組合事例抄録は過去のものを含め全国中央会のホームページ上で「組合事例検索システム」で公開していますのでぜひご活用ください。「組合事例検索システム」<http://jirei.chuokai.or.jp/newjirei/>

## 協同組合鳥取卸センター

組合と組合員を一体と考えた動画・映像作成により組織力強化と人材確保に光明

主な業種	卸売業等				
住所	鳥取県鳥取市商栄町202-2				
URL	-				
設立	昭和42年2月	組合員	20人	出資金	77,320千円

### ■ 背景・目的

昭和42年設立という長い歴史を持ち、地域の卸売業の核組織として事業活動を活発に行っているが、少子化の波のなか、高齢化が進み若手人材の育成、確保が困難な状況となってきた。組合員企業各社が求人募集を行っても応募が極端に少なく、人材確保の手法において企業の認知度が低いため、新たな手法でイメージアップを図り、雇用に繋がる活動が課題となった。そのため組合全体の人材確保事業として取組みを考えた。

### ■ 取組みの手法と内容

組合のイメージアップを図るための「ブランド強化事業特別委員会」を立ち上げ、組合HP作成を検討していたなか、人材確保のための組合員紹介の動画制作案が提案された。この案を進めるなかで鳥取県中央会より「人材確保PR支援事業」活用のアドバイスがあり、人材確保検討委員会を立ち上げた。動画のコンセンサスは、組合員一社ではインパクトが弱い、『組合活動と組合員活動は一体・同体』という組織力をポイントとした。内容は、組合活動(歴史ある組織活動)の紹介、組合員企業の全景紹介、従業員のインタビューによる職場環境や仕事の内容紹介など求職活動者に受け入れやすい構成とした。またハローワーク等の求人掲載にも若年者が気軽に企業の動画が見られる「求人企業の可視化」を図ったことで若者の閲覧、検索にも役立った。まず若者の利用度が高く話題性のあるYouTubeを活用して配信したことにより、従前にはなかった動画の閲覧があり、毎月閲覧件数が増加している。従来、ハローワークや求人誌に求人広告等を行っても反応が薄く、応募に至らなかった組合員の新たな求人戦略となった。今後の課題は、新たな広報手段となっているYouTubeなどのSNSを活用した広報への転換を促すことだ。また組合員各社で今回の組合の取組みにより、組合員の多くから意識改革の声も上がりつつあり、自社HPの保有、動画などによる紹介等が進展していくことが期待されている。

### ■ 成果とその要因

現在の若年求職者への広報手段としてYouTubeを取り入れたことと、組合員一社の紹介に加え組合という組織力をPRするため組合活動の紹介も動画化したことで、若者に動画・映像を観て理解、納得してもらうことが可能となった。今後は自社独自のHP制作の支援、YouTubeなどを自社制作し、SNS社会への対応を積極的に推進することにより、組合員の組合事業参画、組合への帰属意識の向上、若年者の人材確保に繋がっていくことが期待される。



PR動画YouTube配信



検討委員会を立ち上げ映像内容協議

### ！ポイント！

組合の事業活動と組合員企業の立ち位置を『組合活動と組合員活動は一体・同体』と位置づけ、SNS社会に対応してYouTube等の動画映像で広報。



# 県内中小企業主要業種の景気動向

(10月末調査)

中小企業団体情報連絡員70名の情報連絡票から

過去のものを含め、詳細のものは、中央会HP (<http://www.chuokai-gifu.or.jp/chuokai/report/report01.html>) に公開しております。

## (I) 10月の特色

- ◆景況感DI値マイナス20 前月比±0ポイントの横ばい
- ◆売上高DI値マイナス4、収益状況DI値マイナス37  
～引き続き原材料・資材・エネルギー価格等の高騰や円安により収益状況に影響が出ている～
- ◆イベント再開や人流回復、受注回復による仕事量の増加がみられた業種もあるが、人手不足の影響で対応に苦慮する声もあがっている

10月次景況	
項目	DI値
景況	-20 (0)
売上高	-4 (-6)
販売価格	23 (-9)
収益状況	-37 (-5)
資金繰り	-16 (-2)
雇用人員	-4 (3)

カッコ内は前月比増減ポイント

製造業		前年同月比						
区分	業種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
食料品	牛乳 食肉(国産)	乳	△	○	▲	△	△	▲
		肉(国産)	△	△	▲	△	△	▲
	菓子 米菓 製麺	菓子	△	△	▲	△	▲	▲
		米菓	○	△	▲	△	△	△
繊維・同製品	ニット工業物	糸	△	△	△	△	△	△
		工業物	△	△	△	△	△	△
	毛織物	毛織物	○	○	△	△	△	○
		合成繊維織物	▲	△	▲	▲	△	▲
	メンズアパレル	メンズアパレル	△	△	△	△	△	△
		婦人・子供服	△	▲	▲	▲	▲	▲
縫製(既製服)	縫製(既製服)	△	○	△	△	▲	○	
木材・木製品	製材	製材	△	△	△	△	△	△
		銘木	▲	▲	○	△	△	△
	家具	家具	△	○	△	△	△	○
		東濃ひのき	○	▲	△	△	△	△
紙紙加工品	機械すき和紙	機械すき和紙	○	△	▲	△	○	△
		特殊紙	○	○	△	△	△	▲
	紙加工品	紙加工品	△	○	△	△	△	△
印刷	印刷	△	○	▲	▲	△	△	
化学ゴム	プラスチック	△	○	▲	△	△	▲	
窯業・土石	陶磁器(工業)	陶磁器(工業)	△	○	△	△	▲	○
		タイル	△	○	△	△	△	▲
	窯業原料	窯業原料	△	△	▲	△	△	△
		石灰	▲	○	▲	△	△	▲
	生コンクリート	生コンクリート	△	△	△	△	△	△
		砂利生産	▲	△	△	△	△	△
砕石生産	砕石生産	▲	△	△	△	△	△	
鉄鋼・金属	鋳物	鋳物	△	△	△	△	△	△
		刃物等金属製品(輸出)	△	△	▲	△	△	○
	刃物等金属製品(内需)	刃物等金属製品(内需)	△	△	△	△	△	△
		メッキ	▲	○	▲	△	△	▲
一般機械	県金属工業団地	県金属工業団地	△	△	▲	△	△	△
		可児工業団地	○	△	△	△	△	△
	金型	金型	○	△	▲	△	△	△
輸送用機器	輸送用機器	○	△	▲	△	△	△	

非製造業		前年同月比						
区分	業種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
卸売業	電設資材卸	電設資材卸	▲	○	△	△	△	△
		陶磁器産地卸	△	○	△	△	△	△
	機械・工具販売	機械・工具販売	○	△	▲	▲	△	△
		青果販売	△	△	△	△	△	△
小売業	水産物商業	水産物商業	△	○	△	△	△	△
		家電機器販売	△	△	△	△	△	▲
	メガネ販売	メガネ販売	△	△	△	△	△	△
		中古自動車販売	▲	○	▲	▲	▲	▲
	石油製品販売	石油製品販売	○	○	○	△	△	△
		共同店舗(飛騨)	▲	△	▲	▲	△	△
	生花販売	生花販売	▲	▲	▲	▲	▲	△
		岐阜市商店街	▲	△	▲	▲	△	▲
	商店街	大垣市商店街	▲	○	▲	△	△	△
		高山市商店街	○	△	○	△	△	○
自動車車体整備		△	△	△	△	△	▲	
サービス業	長良川畔旅館	長良川畔旅館	○	○	▲	▲	○	○
		下呂温泉旅館	○	○	△	△	△	△
	高山旅館	高山旅館	○	○	○	○	△	○
		クリーニング	▲	△	▲	▲	△	▲
	広告美術	広告美術	△	○	▲	△	△	△
		旅行業	○	△	△	△	△	△
	理容・美容業	理容・美容業	▲	△	△	△	△	△
建設業	土木(岐阜地区)	土木(岐阜地区)	○	△	△	△	△	△
		土木(飛騨地区)	▲	△	△	△	△	△
	建築設計	建築設計	▲	▲	▲	▲	△	▲
		鉄構造物	△	△	△	△	△	△
	電気工事	電気工事	○	△	△	△	△	▲
		管設備工事	△	△	△	△	△	△
運輸業	建築板金	建築板金	△	△	△	△	△	▲
		室内装飾	▲	△	▲	▲	△	▲
	木造建築	▲	△	▲	△	○	△	
運輸業	貨物運送(岐阜地区)	貨物運送(岐阜地区)	▲	△	▲	△	△	▲
		軽運送	▲	▲	▲	△	△	▲
貨物運送(県内)	貨物運送(県内)	△	△	△	△	△	△	

凡例  
 ○: [増加]、[上昇]、[好転]  
 △: [不変]  
 ▲: [減少]、[下降]、[悪化]

# 雇用の問題お悩み解決のためのサポートをします!

早期退職を募らなくてはいけなくなりました。  
従業員の次の就職先を見つけたい。

一時的に社員の仕事が  
なくなってしまう。  
そんな時どうすればいいの?

ハラスメント防止など社員教育に課題が  
あり、セミナーの必要性は感じているが、  
なかなか手が回らない。

採用って難しい。  
一回二回の面接では判断できない。  
当社に合う方を紹介してくれたら助かるのに。

他社ではどのように  
取り組んでいるのか?  
他社に Outreach してもらって、  
広い視野を持ってもらい、  
当社の業務改善につなげたい。



定年を迎える社員。  
能力も高く経験も豊富なのに、  
引退してしまうのはもったいない。  
まだまだ社会に貢献できるのに。

安心のサポート

下記の都道府県事務所にお問い合わせ下さい



## 産業雇用安定センターとは?



1987年(昭和62年)、労働省(当時)、日経連、産業団体などが協力して、「失業なき労働移動」を支援する公的機関として設立。以来30余年にわたり、再就職・出向などによる企業間の労働移動をサポートします。

全国の労働局・  
ハローワークと連携

全国47都道府県に  
事務所を設置

相談・紹介・仲介・  
斡旋の費用は無料

設立以来、  
24万人の再就職・  
出向の支援実績

1人の求職者に一人の  
コンサルタントが  
マンツーマンでサポート

産業雇用安定セン  
ターが、詳しくわ  
かる動画は、こち  
らをご覧ください。



公益財団法人

産業雇用安定センター 岐阜事務所

www.sangyokoyo.or.jp

産業雇用

検索



〒500-8163 岐阜市鶴舞町2-6-7 ワークプラザ岐阜3階

TEL 058-246-7060 FAX 058-246-7062 【ご利用時間】 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)



## ◎秋の叙勲・褒章の表彰 おめでとうございます!

令和4年『秋の叙勲』の受章者が発表されました。中央会関係者の方々は以下のとおりです。

【旭日双光章】 安藤 英利 氏(多治見陶磁器卸商業協同組合・理事長)

## ○中央会 新規採用のお知らせ

次のとおり事務局職員の新規採用を行いましたのでお知らせいたします。

新規採用 中井 謙二郎(なかい けんじろう)／組織支援課

## DX相談窓口通信

中央会では、中小企業・小規模事業者の皆様のDX導入の推進を目的に「バックオフィス業務等DX導入支援事業」相談窓口を設置し、専門家による相談窓口対応や組合向けの啓発セミナー及び個別相談会の開催、バックオフィス業務に係るクラウドサービス等の導入支援を行っています。

このコーナーでは、本事業の専門家である4名のDXアドバイザーに、バックオフィス業務等へのDX導入に関する有益な情報についてご執筆いただきます。今回は、浅田正二DXアドバイザーに筆を執っていただきました。  
【お問合せ窓口】TEL 058-277-1104(専用ダイヤル)

## DXに向けてホップ・ステップ・ジャンプ

事業者様を訪問させていただきますとDXって何かわからないし、うちには関係ないといったお話をよく伺います。

経済産業省はDXを以下のように定義しています。

『企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。』

ちょっと難しいですね。少し砕けた言い方をすれば、データとデジタル技術で企業の新たな価値を見つけることです。

事業を行う上でデータは必要で、どんな規模の事業者様もお持ちです。手書きのデータや、税務会計用データ等々、データは多岐に亘ります。

そして、手書きのデータをデジタルデータに置き換えることで直ぐに効果が現れるのが“勤怠管理”です。タイムカードなど、紙の出勤簿などで集計されている事業者様は、直ぐにでも取り組んで欲しいDXに向けた第一歩です。タイムカードの印字データを電子データに置き換えることで集計ミスから解放され、タイムカードの購入費用やインク代の削減にもつながります。こうした既存業務の一部をデジタル化

する段階をデジタイゼーションと言います。(DXに向けた第一歩を踏み出すホップにあたります。)

次のステップでは、電子化されたタイムカードを勤怠管理ソフト、会計ソフトと連携して利用することです。この段階をデジタイゼーションと言います。

こうして業務全般を一貫してデジタル化することで、データとデジタル技術を活用したDXに向けてジャンプする準備ができました。

DXに向けた対応では、販売管理、在庫管理、生産管理などを会計システムと連携させるクラウドサービスも充実してきており、業務全般を一貫してデジタル化するための費用面でのハードルが低くなってきています。

また、これらの対応を支援するため、『IT導入補助金』が用意されています。この制度を利用してDXに向けてホップ・ステップ・ジャンプしてみませんか。中央会のDXアドバイザーがお手伝いさせていただきます。

Office ASADA  
代表 浅田 正二 氏  
(ITコーディネーター)



浅田 正二 氏

## 組合事務局スキルアップ講座 参加者募集のお知らせ

中央会では、組合事務局役職員を対象に、組合に関する様々な知識について学ぶことにより組合事務局のスキルアップを図るテーマ別研修会を開催します。

会場・  
オンライン  
同時開催

参加  
無料

### 組合制度

日時：12月6日(火) 13:30~15:30

テーマ：「組合制度の基礎とポイント  
～定款参考例を読み解く～」

講師：岐阜県中小企業団体中央会 指導員

内容：定款参考例の条文を解説しながら、  
組合制度の基礎知識、注意点など  
を解説します。

組合の基礎である「定款」の内容について確認し、定款に則った組合運営を行えるようにします！

### 組合会計

日時：12月12日(月) 13:30~15:30

テーマ：「一から確認！組合会計の基礎」

講師：森靖税理士事務所  
税理士 森 靖 氏

内容：①組合会計の原則  
②組合特有の会計処理  
③決算関係書類の作成

組合会計の基礎知識を一から確認し、決算関係書類を不備なく作成できるようにします！

### ■開催場所(両日とも)

ホテルグランヴェール岐山 5階「飛翔」

### ■定員(両日とも)

会場:30名+オンライン:20名

詳細、申し込みは、本会HP (<http://www.chuokai-gifu.or.jp/chuokai/>) をご確認ください。  
【問合せ先】岐阜県中小企業団体中央会 組織支援課 058-277-1102

## 今から知っておきたい 電子帳簿保存法・インボイスセミナー

電子帳簿保存法の改正が施行され、帳簿書類を電子的に保存する際の手続き等について抜本的な見直しが行われました。2年間の有償措置はありますが、早めの対応が必要となります。

本講習会では、電子帳簿保存法の概要や今からできる対応について解説を行います。また、令和5年10月1日から導入されるインボイス制度についての解説も併せて行います。

日時：令和4年12月13日(火) 14:00~16:00

会場：ホテルグランヴェール岐山 3階「末広」

定員：【会場】30名 【オンライン】50名

講師：税理士法人長尾会計  
代表社員 長尾 博 氏  
(中小企業診断士・税理士)

内容：●電子帳簿保存法は全ての事業者に関係します  
●経営者が知っておくべき電子取引のQ&A  
●明日から実践する「電子帳簿保存法」への備え  
●電子帳簿保存法のメリット・デメリット  
●インボイス制度について

会場・  
オンライン  
同時開催

参加  
無料



詳細、申し込みは、本会HP (<http://www.chuokai-gifu.or.jp/chuokai/>) をご確認ください。  
【問合せ先】岐阜県中小企業団体中央会 企画振興課 058-277-1101